



▲丹霞晩照



▲陽元石
▲梅関古道



▲陰元石



▲紹興臘肉の炒めもの

中華人民共和国 広東省 韶関市

～嶺南の歴史回廊と自然の驚異～



顔 昊さん

(中国・韶関市出身。6年間、日本にて留学および就職を経験。現在は中国・深圳市在住、日系IVD企業勤務。)

韶関市は中国広東省の最北端に位置し、湖南・江西の両省に跨る古代交通の要衝です。中原(注1)と嶺南(注2)を結ぶ「文化の十字路」として、2000年にわたる歴史を刻んできました。

【石畳に刻まれた南北交流史 梅関古道】

江西省と韶関を結ぶ「梅関古道」は、漢代に起源を持つ中国最良の古代官道です。開元年間(713-741年)に宰相・張九齡(注3)が大改修をおこない、海上シルクロード(注4)と内陸交易路(シルクロード)をつなぐ経済の大動脈として繁栄しました。古道の名称は越人(注5)集団の首領・梅鎔に由来し、唐代詩人・宋之問の「度大庾嶺」で詠まれた梅花詩から「梅嶺」の雅称が広まりました。1月中旬から2月にかけては、古道沿いに白・桃・黄の三色梅が咲き誇り、石畳が花びらの絨毯と化す幻想的な光景が見られます。

【赤き大地の造形美 丹霞山】

韶関市の北東に広がる丹霞山は、1億4000万年前に形成された赤色砂岩層が作り出した奇観です。水食・風食作用で生まれた朱色の断崖が林立し、2010年「中国丹霞」としてユネスコ世界自然遺産に登録されました。中でも陽元石(28mの柱状奇岩)と陰元石(裂け目状岩窟)は、古来より生命の根源を象徴する自然崇拜の対象でした。晨昏(朝夕)時に断崖が赤紫色に輝く「丹霞晩照」は広東八景の一つに数えられます。

【粤北山岳が育む琥珀の味 韶関臘肉】

粤北山岳地帯の厳冬が生んだ伝統保存食「臘肉」は、明代初期(14世紀)から記録が残っています。厳選した豚肉を塩・醤油・地酒で3日間漬け込み、12月から1月の乾燥した冷風で20日間燻製します。琥珀色の脂身と薫り高い旨味が特徴で、蒜苗炒めが定番です。客家(注6)社会では脂肪層の厚さが富の象徴とされ、婚礼の結納品にも用いられます。2015年には「南雄板鴨(注7)」が国家地理表示産品(注8)に登録されました。歴史的には茶馬古道

INFORMATION



中華人民共和国

人口 約14億人

首都 北京

言語 中国語

(注9)を通じて肉の燻製法が伝わって発展したもので、現在も旧正月には軒先に腊肉が吊るされ、新春を告げる風物詩となっています。

韶関の魅力は、これら①交通の要衝、②地質の学術的価値、③食の融合などの文化の重層性にあります。

(注1) 中華文化の発祥地の黄河中下流域にある平原。現在の河南省、山東省西部や陝西省東部の地域。

(注2) 中国南部の「五嶺」(南嶺山脈)よりも南の広東省、広西チワン族自治区、海南省など。

(注3) 唐代・玄宗皇帝の宰相で詩人。

(注4) 廣州や泉州の港からマラッカ海峡、スリランカ、インドを経由し、東アフリカや中東、地中海に至る交易路。

(注5) 古代中国の長江以南からベトナム北部に居住していた諸民族の総称。

(注6) 北宋の頃から南に移住し、南部の民から外来の客人と区別された民族。

(注7) 韶関市・南雄市の特産品だがアヒルの燻製。

(注8) 中国政府が品質のすぐれた産地の製品を保護する目的で導入した登録制度。

(注9) 雲南省で取れた茶をチベットへ馬で運んだことから名付けられた交易路。

(編集:川崎市国際交流協会 加藤 恵美)

多文化共生の
取り組みに
フォーカス!

外国につながる 子どものための 高校進学説明会

9月15日(祝・月)に日本語を母語としない人のための「高校進学説明会」を開催しました。外国につながるを持つ中学生世代の子どもの中には、日本語の習得が困難で高校受験に関する情報を十分に得られなかったり、そうした情報に辿り着くことのできない人もいます。子どもたちと保護者を対象に例年、この時期に開催しています。

当日は2回に分けて実施し、中国、フィリピン、ネパール、ペルー、インド、パキスタン、スリランカの出身者が計100名以上参加しました。通訳が必要な人には、通訳ボランティアが付いて同時通訳をおこないました。

説明会では、まず参加者全員に、年齢の近い先輩から自身の体験を話してもらいました。日本語学習や将来の夢の実現に向けた取り組み、高校生活についての話は、子どもたちにとって大きな動機付けになったようです。その後、参加者は事前の希望に基づいて複数のブースを回り、県立高校・市立高校の学校紹介や入試の仕組みについて説明を受けました。進学に関する総合相談やビザ相談のブースもあり、個別に相談もしていました。

子どもたちが高校に進学し、卒業・就職して未来が拓かれることを、そして日本社会で活躍していただけることを願ってやみません。

(文・写真撮影:川崎市国際交流協会 英語相談員 種石 浩史)



各高校のブースで先生から説明を受ける参加者

ボランティア養成事業 観光ボランティア通訳セミナー 街歩きで 訪日外国人おもてなし講座

外国人観光客がリピートしたくなるようなツアー作りと川崎市の魅力も学べる観光ボランティア通訳セミナー「街歩きで訪日外国人おもてなし講座」を9月6日、27日(土)に開催し、17名が参加しました。

1回目は「街歩きは文化の宝箱」をテーマに、参加者はJTB総合研究所客員研究員の樋口講師から魅力あるツアー作りのポイントや実際のツアー場所「ブレイメン通り商店街」について学び、その後、商店街を探索しながら各自でツアーを企画しました。2回目は当交流協会の英語講師ニコラス先生から、ツアーガイドで使う英語表現を学び、参加者それぞれのツアー企画を英語で紹介し合いました。最後に、実際に外国人15名とそれぞれペアになって案内しました。

参加者からは「思いがけずイスラム教の方と話せたりして、非常におもしろかった」「実際のツアーから英語力不足や自身の日本についての知識不足に気づかされた」などの感想がありました。このボランティア養成セミナーを通して、観光地だけでなく川崎の魅力や外国人に日本の文化や日常生活を紹介するおもてなしなど、さまざまな体験してもらえたようです。



参加者の皆さん



ニコラス先生

(写真撮影:川崎市国際交流協会 藤崎 章子、文:同 加藤 恵美)